

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号  
特許第7633985号  
(P7633985)

(45)発行日 令和7年2月20日(2025.2.20)

(24)登録日 令和7年2月12日(2025.2.12)

(51)国際特許分類

F I

H 0 2 G 3/16 (2006.01)

H 0 2 G 3/16

B 6 0 R 16/02 (2006.01)

B 6 0 R 16/02

6 1 0 A

請求項の数 5 (全16頁)

(21)出願番号	特願2022-187140(P2022-187140)	(73)特許権者	000006895
(22)出願日	令和4年11月24日(2022.11.24)		矢崎総業株式会社
(65)公開番号	特開2024-75892(P2024-75892A)		東京都港区港南一丁目8番15号
(43)公開日	令和6年6月5日(2024.6.5)	(74)代理人	110001771
審査請求日	令和6年4月16日(2024.4.16)		弁理士法人虎ノ門知的財産事務所
		(72)発明者	清田 浩孝
			静岡県牧之原市布引原206-1 矢崎
			部品株式会社内
		(72)発明者	小野田 健
			静岡県牧之原市布引原206-1 矢崎
			部品株式会社内
		審査官	神田 太郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 電気接続箱

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

電子部品と、  
前記電子部品を外部電源に電気接続させる内部導電部材と、  
少なくとも一端に開口が設けられた筒壁から成り、その筒内に前記電子部品及び前記内部導電部材を収容し且つ保持する筒部を有するフレームと、  
前記筒部の前記開口を塞ぐカバー部材と、  
前記筒部の筒外で前記フレームの外に配置され、前記外部電源と外部負荷との間に介在させる回路分岐部品と、  
を備え、

前記内部導電部材は、前記筒部の筒内で前記電子部品に対して物理的且つ電氣的に接続させる第1電気接続部と、第2電気接続部と、を有し、

前記回路分岐部品は、前記外部電源に電気接続された電源側電線を電氣的に接続させると共に前記内部導電部材の前記第2電気接続部を物理的且つ電氣的に接続させる電源接続部と、前記外部負荷に電気接続された負荷側電線を電氣的に接続させる負荷接続部と、を有することを特徴とした電気接続箱。

【請求項2】

前記フレームの外枠を成す外壁は、その全て又は一部が前記筒部の前記筒壁で形成され、  
前記フレームは、前記外壁を前記筒部の筒内側に凹ませて、前記回路分岐部品を配置させる凹部を有することを特徴とした請求項1に記載の電気接続箱。

**【請求項 3】**

前記第 2 電気接続部は、前記筒部の筒外で前記フレームの外に配置され、

前記フレームは、前記筒部の前記開口と同じ向きに口を開けた開口が設けられ、前記筒部の前記筒壁から前記筒部の筒外で前記フレームの外に向けて膨出させた形の副筒部を有し、

前記副筒部の筒内には、前記電源側電線と前記内部導電部材の前記第 2 電気接続部と前記回路分岐部品の前記電源接続部とを相互間で電氣的に接続させる電源側電気接続構造を設け、

前記筒部の前記筒壁は、自身の筒内と前記副筒部の筒内とを連通させ、かつ、前記内部導電部材の前記第 2 電気接続部を前記筒部の筒外で前記フレームの外に突出させる切欠きを有することを特徴とした請求項 1 に記載の電気接続箱。

10

**【請求項 4】**

前記内部導電部材として第 1 内部導電部材と第 2 内部導電部材を備え、

前記回路分岐部品は、前記電源接続部としての第 1 電源接続部と第 2 電源接続部とを前記電源側電線としての第 1 電源側電線と第 2 電源側電線とに各々電氣的に接続させるものであり、前記第 1 電源接続部と前記第 2 電源接続部とを連結させる連結部を有し、

前記フレームは、前記筒部の前記開口と同じ向きに口を開けた開口が設けられ、前記筒部の前記筒壁から前記筒部の筒外で前記フレームの外に向けて膨出させた形の第 1 副筒部と、前記筒部の前記開口と同じ向きに口を開けた開口が設けられ、前記筒部の前記筒壁から前記筒部の筒外で前記フレームの外に向けて膨出させた形の第 2 副筒部と、を有し、

20

前記第 1 副筒部の筒内には、前記第 1 電源側電線と前記第 1 内部導電部材の前記第 2 電気接続部と前記回路分岐部品の前記第 1 電源接続部とを相互間で電氣的に接続させる第 1 電源側電気接続構造を設け、

前記第 2 副筒部の筒内には、前記回路分岐部品及び前記第 1 電源側電線を介して前記外部電源に電気接続される前記第 2 電源側電線と前記第 2 内部導電部材の前記第 2 電気接続部と前記回路分岐部品の前記第 2 電源接続部とを相互間で電氣的に接続させる第 2 電源側電気接続構造を設け、

前記筒部の前記筒壁は、自身の筒内と前記第 1 副筒部の筒内とを連通させ、かつ、前記第 1 内部導電部材の前記第 2 電気接続部を前記筒部の筒外で前記フレームの外に突出させる第 1 切欠きと、自身の筒内と前記第 2 副筒部の筒内とを連通させ、かつ、前記第 2 内部導電部材の前記第 2 電気接続部を前記筒部の筒外で前記フレームの外に突出させる第 2 切欠きと、を有することを特徴とした請求項 1 に記載の電気接続箱。

30

**【請求項 5】**

前記電源接続部には、前記電源側電線の端末に取り付けられた電源側端子金具を物理的且つ電氣的に接続させ、

前記負荷接続部には、前記負荷側電線の端末に取り付けられた負荷側端子金具を物理的且つ電氣的に接続させ、

前記電源側電線と前記負荷側電線は、その内の少なくとも 1 本の芯線がアルミニウム又はアルミニウム合金で成形されていることを特徴とした請求項 1 , 2 , 3 又は 4 に記載の電気接続箱。

40

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、電気接続箱に関する。

**【背景技術】****【0002】**

電気接続箱においては、外部の電源と負荷との間に介在させるリレー等の電子部品が筐体に收容されている。この電気接続箱においては、その電子部品に対して電氣的に接続された電線を筐体の中で引き回し、この電線を筐体の外に引き出して電源や負荷に電氣的に接続させる。例えば、この従来の電気接続箱については、下記の特許文献 1 に開示されて

50

いる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2014-93888号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、近年の車両においては、軽量化対応で電線の芯線の素材を変更するために電線径を太くしたり、大電流対応で電線径を太くしたりするなど、折り曲げ難い電線の採用が増えている。このため、電気接続箱においては、筐体の中の狭い空間での電線の引き回しが難しく、筐体内でその電線から周辺に過荷重が加えられてしまう可能性がある。

10

【0005】

そこで、本発明は、筐体内での過荷重を抑え得る電気接続箱を提供することを、その目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、電子部品と、前記電子部品を外部電源に電気接続させる内部導電部材と、少なくとも一端に開口が設けられた筒壁から成り、その筒内に前記電子部品及び前記内部導電部材を収容し且つ保持する筒部を有するフレームと、前記筒部の前記開口を塞ぐカバー部材と、前記筒部の筒外で前記フレームの外に配置され、前記外部電源と外部負荷との間に介在させる回路分岐部品と、を備え、前記内部導電部材は、前記筒部の筒内で前記電子部品に対して物理的且つ電氣的に接続させる第1電気接続部と、第2電気接続部と、を有し、前記回路分岐部品は、前記外部電源に電気接続された電源側電線を電氣的に接続させると共に前記内部導電部材の前記第2電気接続部を物理的且つ電氣的に接続させる電源接続部と、前記外部負荷に電気接続された負荷側電線を電氣的に接続させる負荷接続部と、を有することを特徴とする。

20

【発明の効果】

【0007】

本発明に係る電気接続箱は、回路分岐部品を筒部の筒外でフレームの外に配置しているので、この回路分岐部品に接続された電源側電線や負荷側電線による筐体内での周辺への過荷重を抑止することができる。特に、この電気接続箱は、電線径が太くなるほど電源側電線や負荷側電線が曲がり難いので、この電源側電線等による筐体内での周辺への過荷重を抑止することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】図1は、実施形態の電気接続箱を示す斜視図である。

【図2】図2は、実施形態の電気接続箱（第1カバー部材無し）をフレームの一方の開口側から見た平面図である。

【図3】図3は、実施形態の電気接続箱（第1カバー部材無し）をフレームの側方から見た平面図である。

40

【図4】図4は、実施形態の電気接続箱（第1カバー部材と第2カバー部材無し）を示す分解斜視図である。

【図5】図5は、ブロックと、これに収容される内部導電部材及び雄螺子部材と、を示す分解斜視図である。

【図6】図6は、実施形態の電気接続箱（第1カバー部材無し）におけるフレームと第2カバー部材の分解斜視図である。

【図7】図7は、負荷側電気接続構造について説明する分解斜視図である。

【図8】図8は、回路保護部材を示す斜視図である。

【図9】図9は、電源側電気接続構造について説明する拡大図である。

50

【図 1 0】図 1 0 は、フレームを示す斜視図である。

【図 1 1】図 1 1 は、第 1 分割カバーを示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下に、本発明に係る電気接続箱の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。尚、この実施形態によりこの発明が限定されるものではない。

【0010】

[実施形態]

本発明に係る電気接続箱の実施形態の 1 つを図 1 から図 1 1 に基づいて説明する。

【0011】

図 1 から図 4 の符号 1 は、本実施形態の電気接続箱を示す。この電気接続箱 1 は、自動車等の車両に搭載され、その車両における二次電池等の外部電源 B と電源分配対象物（例えば、給電対象となる補記類等）等の外部負荷 L との間に介在させることによって、その外部電源 B の電力を外部負荷 L に供給する（図 1）。

【0012】

電気接続箱 1 は、リレーやヒューズ等の電子部品 1 0 を備え（図 2）、この電子部品 1 0 を外部電源 B と外部負荷 L との間に介在させる。更に、この電気接続箱 1 は、外部電源 B と外部負荷 L との間に介在させる回路分岐部品 2 0 を備える（図 1 から図 4）。この回路分岐部品 2 0 は、外部電源 B からの電力を複数の外部負荷 L へと分配させるための部品である。電気接続箱 1 は、電子部品 1 0 を複数備える一方、回路分岐部品 2 0 を少なくとも

【0013】

この電気接続箱 1 は、電子部品 1 0 を保持するブロック 3 0 と、このブロック 3 0 を筒内に収容し且つ保持する両端開口（開口 4 1 a, 4 1 b）の筒壁 4 1 c から成る筒部 4 1 を有するフレーム 4 0 と、を備える（図 1 から図 6）。そして、この電気接続箱 1 は、その筒部 4 1 における一方の開口 4 1 a を塞ぐカバー部材（以下、「第 1 カバー部材」という。）5 1 と、その筒部 4 1 における他方の開口 4 1 b を塞ぐカバー部材（以下、「第 2 カバー部材」という。）5 2 と、を備える（図 1、図 3 及び図 6）。そのブロック 3 0 とフレーム 4 0 と第 1 カバー部材 5 1 と第 2 カバー部材 5 2 は、合成樹脂等の絶縁性材料で成形される。

【0014】

この電気接続箱 1 においては、フレーム 4 0 と第 1 カバー部材 5 1 と第 2 カバー部材 5 2 とで筐体が構成され、この筐体の中で電子部品 1 0 に電氣的に接続された電線（図示略）がその中を引き回されて筐体の外に開口から引き出される。

【0015】

フレーム 4 0 においては、他方の開口 4 1 b から筒部 4 1 の筒内にブロック 3 0 が挿入される。このフレーム 4 0 は、1 つの筒部 4 1 で構成されている場合、その外枠を成す外壁の全てが筒部 4 1 の筒壁 4 1 c で形成される。また、フレーム 4 0 は、一方の開口 4 1 a の開口方向をそれぞれに合わせ且つ他方の開口 4 1 b の開口方向をそれぞれに合わせた複数の筒部 4 1 の組み合わせで構成されている場合、その外枠を成す外壁が複数の筒部 4 1 における筒壁 4 1 c の一部の組み合わせで形成される。つまり、フレーム 4 0 の外枠を成す外壁は、その全て又は一部が筒部 4 1 の筒壁 4 1 c で形成されている。

【0016】

ここで示すフレーム 4 0 は、2 つの筒部 4 1 を組み合わせたものとなっており、一方の開口 4 1 a を車両上方に向けて車両に搭載される。ここで示す第 1 カバー部材 5 1 は、その筒部 4 1 毎に設ける。また、ここで示す第 2 カバー部材 5 2 は、相互間で組み付けられる第 1 分割カバー 5 2 A と第 2 分割カバー 5 2 B に分割されており、この第 1 分割カバー 5 2 A と第 2 分割カバー 5 2 B とを組み付けた形で 2 つの筒部 4 1 におけるそれぞれの他方の開口 4 1 b を塞ぐ（図 1、図 3 及び図 6）。

【0017】

10

20

30

40

50

この電気接続箱 1 は、電子部品 10 を外部電源 B に電気接続させ、かつ、この電子部品 10 と一緒にブロック 30 に保持される内部導電部材 60 を備える（図 4 及び図 5）。この内部導電部材 60 は、筒部 41 の筒内で電子部品 10 に対して物理的且つ電氣的に接続させる第 1 電気接続部 61 を有する（図 5）。この第 1 電気接続部 61 は、電子部品 10 毎に設けられている。また、この内部導電部材 60 は、外部電源 B に電気接続させる第 2 電気接続部 62 を有する（図 4 及び図 5）。この内部導電部材 60 においては、複数の第 1 電気接続部 61 と第 2 電気接続部 62 とが連結部 63 で繋がれている（図 5）。この内部導電部材 60 は、その連結部 63 を筒部 41 の筒外まで延在させ、その延在させた先のフレーム 40 の外で連結部 63 に第 2 電気接続部 62 が連結された形状を採っている。つまり、第 2 電気接続部 62 は、筒部 41 の筒外でフレーム 40 の外に配置される。

10

**【0018】**

この内部導電部材 60 は、所謂バスバであり、例えば、金属板を母材にして板状に成形される。ブロック 30 は、筒部 41 の筒内で電子部品 10 と内部導電部材 60 を保持するブロック本体 31 を有している（図 1、図 2 及び図 4 から図 6）。

**【0019】**

尚、電気接続箱 1 は、ブロック 30 と一体になったフレーム 40 を備えるものであってもよい。このフレーム 40 とは、少なくとも一端に開口 41a が設けられた筒壁 41c から成り、その筒内に電子部品 10 及び内部導電部材 60 を収容し且つ保持する筒部 41 を有するものである。例えば、電気接続箱 1 は、フレーム 40 が両端開口（開口 41a、41b）の筒壁 41c から成る筒部 41 を有するものであれば、先の例示と同じように第 1 カバー部材 51 と第 2 カバー部材 52 を備える。一方、電気接続箱 1 は、フレーム 40 が開口 41a のみの筒壁 41c から成る筒部 41（つまり、開口 41b が塞がれている筒部 41）を有するものであれば、第 1 カバー部材 51 だけを備える。

20

**【0020】**

回路分岐部品 20 は、筒部 41 の筒外でフレーム 40 の外に配置される。そして、この回路分岐部品 20 は、外部電源 B と外部負荷 L との間に介在させる導電性の回路分岐部材 21 を備える（図 4、図 7 及び図 8）。

**【0021】**

ここで、この回路分岐部品 20 は、後述する電源接続部 22 と負荷接続部 23 を少なくとも有するものである。そして、この回路分岐部品 20 は、電源接続部 22 と複数の負荷接続部 23 とを電氣的に繋ぐ後述する連結部 25 を有している。但し、ここで示す回路分岐部品 20 は、電源接続部 22 と負荷接続部 23 に加えて、外部電源 B と外部負荷 L との間の過電流を遮断するための後述する可溶部 24 を有しており、これに伴い後述する連結部 25 を有している。つまり、ここでは、回路分岐部品 20 の一例として、外部電源 B と外部負荷 L との間の過電流を遮断するための回路保護部品を挙げている。よって、ここで示す回路分岐部品（回路保護部品）20 は、回路分岐部材 21 として、外部電源 B と外部負荷 L との間に介在させる導電性の回路保護部材を備えている。

30

**【0022】**

この回路分岐部材（回路保護部材）21 は、外部電源 B に電気接続された電源側電線 WB を電氣的に接続させると共に内部導電部材 60 の第 2 電気接続部 62 を物理的且つ電氣的に接続させる電源接続部 22 を有する（図 4、図 7 及び図 8）。

40

**【0023】**

また、回路分岐部材（回路保護部材）21 は、外部負荷 L に電気接続された負荷側電線 WL を電氣的に接続させる負荷接続部 23 と、電源接続部 22 と負荷接続部 23 との間に介在させ、過電流が流れた際に溶断させる可溶部 24 と、を有する（図 7 及び図 8）。この回路分岐部材（回路保護部材）21 においては、その負荷接続部 23 と可溶部 24 が外部負荷 L 毎に設けられている。そして、この回路分岐部材（回路保護部材）21 は、電源接続部 22 と可溶部 24 とを連結させる連結部 25 を有する（図 8）。この連結部 25 には、電源接続部 22 と外部負荷 L 毎の可溶部 24 とが連結される。

**【0024】**

50

この回路分岐部材（回路保護部材）２１は、所謂バスバであり、例えば、金属板を母材にして板状に成形される。この回路分岐部品（回路保護部品）２０においては、電源接続部２２と負荷接続部２３と可溶部２４とを露出させた状態で回路分岐部材（回路保護部材）２１に対して合成樹脂材料で樹脂部２６が一体成形される（図４及び図７）。そして、この回路分岐部品（回路保護部品）２０においては、露出している可溶部２４を覆い隠す合成樹脂材料から成る透明の樹脂カバー２７が樹脂部２６に対して組み付けられる（図４及び図７）。

#### 【００２５】

電気接続箱１は、電源側電線ＷＢと内部導電部材６０の第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の電源接続部２２とを相互間で電氣的に接続させる電源側電気接続構造７０を備える（図２、図４、図５及び図９）。電源側電線ＷＢの末端には、電源側端子金具ＴＢが取り付けられている（図２から図４）。よって、電源側電気接続構造７０は、その電源側端子金具ＴＢと内部導電部材６０の第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の電源接続部２２とを相互間で物理的且つ電氣的に接続させるものとする。

10

#### 【００２６】

ここで示す電源側電気接続構造７０は、雄螺子部材７１と、雄螺子部を露出させた状態で雄螺子部材７１を保持する螺子保持部材７２と、雄螺子部材７１の雄螺子部に螺合させる雌螺子部材７３と、を備える（図４、図５及び図９）。この電源側電気接続構造７０は、電源側端子金具ＴＢと内部導電部材６０の第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の電源接続部２２とに各々設けた貫通孔ＴＢａ，６２ａ，２２ａに雄螺子部材７１の雄螺子部を挿通させ、その雄螺子部に雌螺子部材７３を螺合させることによって、その電源側端子金具ＴＢと内部導電部材６０の第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の電源接続部２２とを共締め固定する（図４及び図５）。

20

#### 【００２７】

ここで、この電源側電気接続構造７０においては、雄螺子部の螺子軸を鉛直方向（つまり、車両上下方向）に合わせ、かつ、この雄螺子部を鉛直上方（つまり、車両上方）に向けて螺子保持部材７２から突出させた形で雄螺子部材７１を配置する。

#### 【００２８】

また、電気接続箱１は、負荷側電線ＷＬと回路分岐部材（回路保護部材）２１の負荷接続部２３とを相互間で電氣的に接続させる負荷側電気接続構造７５を備える（図３、図４及び図７）。負荷側電線ＷＬの末端には、負荷側端子金具ＴＬが取り付けられている（図３及び図７）。よって、負荷側電気接続構造７５は、その負荷側端子金具ＴＬと回路分岐部材（回路保護部材）２１の負荷接続部２３とを相互間で物理的且つ電氣的に接続させるものとする。

30

#### 【００２９】

ここで示す負荷側電気接続構造７５は、雄螺子部材７６と、この雄螺子部材７６の雄螺子部に螺合させる雌螺子部材７７と、を備える（図７）。雄螺子部材７６には、回路分岐部材（回路保護部材）２１の負荷接続部２３の貫通孔２３ａ（図８）に雄螺子部材７６の雄螺子部を挿通させ、かつ、その雄螺子部を露出させた状態で、樹脂部２６が一体成形されている。この負荷側電気接続構造７５は、負荷側端子金具ＴＬに設けた貫通孔ＴＬａに雄螺子部材７６の雄螺子部を挿通させ、その雄螺子部に雌螺子部材７７を螺合させることによって、その負荷側端子金具ＴＬと回路分岐部材（回路保護部材）２１の負荷接続部２３とを共締め固定する（図７）。

40

#### 【００３０】

ここで、この負荷側電気接続構造７５においては、雄螺子部を筒部４１の筒壁４１ｃ側とは逆側に向けて突出させた形で雄螺子部材７６を配置する。この例示では、雄螺子部の螺子軸を鉛直方向（つまり、車両上下方向）に対する直交方向に合わせ、かつ、この雄螺子部を筒部４１の筒壁４１ｃ側とは逆側に向けて突出させた形で雄螺子部材７６を配置している。

50

## 【 0 0 3 1 】

具体的に、回路分岐部品（回路保護部品）20は、フレーム40の外で次のように配置される。

## 【 0 0 3 2 】

フレーム40は、その外枠を成す外壁を筒部41の筒内側に凹ませて、回路分岐部品（回路保護部品）20を配置させる凹部42を有する（図2から図4及び図10）。この凹部42は、回路分岐部品（回路保護部品）20の体格と同等以上の容積を有し、かつ、この回路分岐部品（回路保護部品）20を食み出させずに収め得るものとして形成することが望ましい。

## 【 0 0 3 3 】

また、フレーム40は、筒部41における一方の開口41aと同じ向きに口を開けた開口43aが設けられ、筒部41の筒壁41cから筒部41の筒外でフレーム40の外に向けて膨出させた形の副筒部43を有する（図1から図4、図6及び図10）。この副筒部43は、フレーム40の凹部42の中に設けられている。ここで示す副筒部43は、両端開口（開口43a、43b）の筒体として形成されている。よって、この副筒部43においては、一方の開口43aが筒部41の一方の開口41a側に配置され、他方の開口43bが筒部41の他方の開口41b側に配置される。

## 【 0 0 3 4 】

この副筒部43の筒内には、電源側電気接続構造70を設ける。この副筒部43においては、電源側電気接続構造70の螺子保持部材72を筒内に収容し、かつ、この電源側電気接続構造70における雄螺子部材71の雄螺子部を一方の開口43aから突出させる。よって、内部導電部材60の第2電気接続部62は、この副筒部43の一方の開口43aから突出させた雄螺子部材71の雄螺子部をその一方の開口43aよりも筒部41の一方の開口41a側で貫通孔62aに挿通させる。そこで、筒部41の筒壁41cは、自身の筒内と副筒部43の筒内とを連通させ、かつ、内部導電部材60の第2電気接続部62を筒部41の筒外でフレーム40の外に突出させる切欠き44を有している（図4）。この切欠き44は、他方の開口41b側の端部から一方の開口41aに向けて筒部41の筒壁41cを切り欠いた切欠きであり、副筒部43の一方の開口43aよりも筒部41の一方の開口41a側にまで切り欠かれている。

## 【 0 0 3 5 】

ブロック30は、その切欠き44から筒部41の筒外に突出させ、かつ、副筒部43の筒内に収容させる突出ブロック部32を有する（図4及び図5）。この突出ブロック部32には、螺子保持部材72が組み付けられ、これにより電源側電気接続構造70が保持される。

## 【 0 0 3 6 】

この電気接続箱1においては、内部導電部材60をブロック本体31に保持させ且つ電源側電気接続構造70を突出ブロック部32に保持させた状態で、内部導電部材60の第2電気接続部62の貫通孔62aに電源側電気接続構造70の雄螺子部材71の雄螺子部を挿通させている。この電気接続箱1においては、内部導電部材60が保持されたブロック本体31を他方の開口41bから筒部41の筒内に挿入し、かつ、電源側電気接続構造70が保持された突出ブロック部32を内部導電部材60の第2電気接続部62と共に他方の開口43bから副筒部43の筒内に挿入する。この電気接続箱1においては、内部導電部材60の第2電気接続部62を雄螺子部材71の雄螺子部と共に副筒部43の一方の開口43aから抜け出させた状態で、副筒部43の筒内に突出ブロック部32と電源側電気接続構造70を収容させる。

## 【 0 0 3 7 】

この電気接続箱1においては、その雄螺子部材71の雄螺子部を貫通孔22aに差し込んで回路分岐部材（回路保護部材）21の電源接続部22を電源側電気接続構造70に組み付け、更に、この雄螺子部材71の雄螺子部を貫通孔TBaに差し込んで電源側端子金具TBを電源側電気接続構造70に組み付ける。そして、この電気接続箱1においては、

10

20

30

40

50

その雄螺子部材 7 1 の雄螺子部に雌螺子部材 7 3 を螺合して、電源側端子金具 T B と内部導電部材 6 0 の第 2 電気接続部 6 2 と回路分岐部材（回路保護部材）2 1 の電源接続部 2 2 とを共締め固定する。この電気接続箱 1 においては、電源側端子金具 T B と回路分岐部品（回路保護部品）2 0 が電源側電気接続構造 7 0 を介してブロック 3 0 に組み付けられる。

【 0 0 3 8 】

副筒部 4 3 の一方の開口 4 3 a は、電源側端子金具 T B 、内部導電部材 6 0 の第 2 電気接続部 6 2 、回路分岐部材（回路保護部材）2 1 の電源接続部 2 2 及び電源側電気接続構造 7 0 と一緒に、フレーム 4 0 に組み付けた第 1 カバー部材 5 1 で覆われて、この第 1 カバー部材 5 1 の中に収められる。また、この第 1 カバー部材 5 1 は、フレーム 4 0 の凹部 4 2 を覆っており、この凹部 4 2 の中の回路分岐部品（回路保護部品）2 0 を凹部 4 2 との間の空間内に収める。

10

【 0 0 3 9 】

副筒部 4 3 の他方の開口 4 3 b は、フレーム 4 0 に組み付けた第 2 カバー部材 5 2 に設けた閉塞部 5 3 によって、フレーム 4 0 の外に露出させぬように塞がれる（図 1 、図 3 、図 6 及び図 1 1 ）。

【 0 0 4 0 】

この電気接続箱 1 において、電源側電線 W B と負荷側電線 W L は、その全ての芯線が銅又は銅合金で成形されたものであってもよい。但し、この電源側電線 W B と負荷側電線 W L は、軽量化を図るべく、その内の少なくとも 1 本の芯線がアルミニウム又はアルミニウム合金で成形されたものであることが望ましい。例えば、電源側電線 W B と負荷側電線 W L は、その全ての芯線がアルミニウム又はアルミニウム合金で成形されたものであってもよく、少なくとも 1 本の芯線がアルミニウム又はアルミニウム合金で成形され、残りの芯線が銅又は銅合金で成形されたものであってもよい。

20

【 0 0 4 1 】

電源側電線 W B と負荷側電線 W L は、その芯線がアルミニウム又はアルミニウム合金で成形されている場合、その芯線が銅又は銅合金で成形されているものと比較して、軽量化を図れるが、大電流対応に伴い太く且つ硬いものとなり、曲げ難くなっている。しかしながら、この電気接続箱 1 においては、回路分岐部品（回路保護部品）2 0 を筒部 4 1 の筒外でフレーム 4 0 の外に配置して、そのような曲げ難い電源側電線 W B や負荷側電線 W L をフレーム 4 0 の外で配策する。このため、この電気接続箱 1 は、その電源側電線 W B 等による筐体内での周辺への過荷重を抑止することができ、また、筒部 4 1 の筒内での他の電線の収容性を向上させることができる。

30

【 0 0 4 2 】

具体的に、ここで示す電気接続箱 1 は、内部導電部材 6 0 として、第 1 内部導電部材 6 0 A と第 2 内部導電部材 6 0 B を備えており、この第 1 内部導電部材 6 0 A と第 2 内部導電部材 6 0 B をブロック 3 0 に保持させる（図 4 及び図 5 ）。ここでは、内部導電部材 6 0 として、2 種類の第 1 内部導電部材 6 0 A を備えている。

【 0 0 4 3 】

また、ここで示す回路分岐部材（回路保護部材）2 1 は、電源接続部 2 2 として、第 1 電源接続部 2 2 A と第 2 電源接続部 2 2 B を備えており、この第 1 電源接続部 2 2 A と第 2 電源接続部 2 2 B を電源側電線 W B としての第 1 電源側電線 W B 1 と第 2 電源側電線 W B 2 とに各々電氣的に接続させる（図 4 、図 7 及び図 8 ）。この回路分岐部材（回路保護部材）2 1 においては、連結部 2 5 によって第 1 電源接続部 2 2 A と第 2 電源接続部 2 2 B とが連結され、この連結部 2 5 を介して可溶部 2 4 が第 1 電源接続部 2 2 A と第 2 電源接続部 2 2 B とに連結される。つまり、可溶部 2 4 は、第 1 電源接続部 2 2 A と負荷接続部 2 3 との間に介在させ、かつ、第 2 電源接続部 2 2 B と負荷接続部 2 3 との間に介在させている。

40

【 0 0 4 4 】

第 1 電源側電線 W B 1 は、回路分岐部材（回路保護部材）2 1 から見て第 1 電源接続部

50



２２Ａと外部電源Ｂとの間に介在させて、その第１電源接続部２２Ａを外部電源Ｂに電気接続させる。また、第２電源側電線ＷＢ２は、筐体の外に配置されているオルタネータやＤＣ－ＤＣコンバータ等の外部電気部品Ｐに電気接続され、かつ、回路分岐部材（回路保護部材）２１と第１電源側電線ＷＢ１を介して外部電源Ｂに電気接続される。つまり、この第２電源側電線ＷＢ２は、回路分岐部材（回路保護部材）２１と第１電源側電線ＷＢ１を介して外部電気部品Ｐを外部電源Ｂに電気接続させる。

【００４５】

第１電源接続部２２Ａは、第１電源側電線ＷＢ１を電氣的に接続させると共に第１内部導電部材６０Ａの第２電気接続部６２を物理的且つ電氣的に接続させる。電気接続箱１は、その第１電源側電線ＷＢ１と第１内部導電部材６０Ａの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第１電源接続部２２Ａとを相互間で電氣的に接続させる電源側電気接続構造７０として、第１電源側電気接続構造７０Ａを備える（図２から図５及び図９）。この第１電源側電気接続構造７０Ａは、第１電源側電線ＷＢ１の末端の電源側端子金具ＴＢと第１内部導電部材６０Ａの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第１電源接続部２２Ａのそれぞれの貫通孔ＴＢａ，６２ａ，２２ａに雄螺子部材７１の雄螺子部を挿通させ、その雄螺子部に雌螺子部材７３を螺合させることによって、その電源側端子金具ＴＢと第１内部導電部材６０Ａの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第１電源接続部２２Ａとを共締め固定する。ここでは、電源側端子金具ＴＢと２つの第１内部導電部材６０Ａのそれぞれの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第１電源接続部２２Ａとを共締め固定している。

【００４６】

ここで示すフレーム４０は、副筒部４３として、筒部４１における一方の開口４１ａと同じ向きに口を開けた開口（一方の開口４３ａ）が設けられた第１副筒部４３Ａを有している（図１から図４、図６及び図１０）。この第１副筒部４３Ａは、第１電源側電気接続構造７０Ａを筒内に収容し、かつ、この第１電源側電気接続構造７０Ａにおける雄螺子部材７１の雄螺子部を一方の開口４３ａから突出させる。この第１副筒部４３Ａは、フレーム４０の凹部４２の中に設けられている。筒部４１の筒壁４１ｃには、切欠き４４として、自身の筒内と第１副筒部４３Ａの筒内とを連通させ、かつ、第１内部導電部材６０Ａの第２電気接続部６２を筒部４１の筒外でフレーム４０の外に突出させる第１切欠き４４Ａが設けられている（図４）。そして、ブロック３０には、第１電源側電気接続構造７０Ａの螺子保持部材７２が組み付けられる突出ブロック部３２として、その第１切欠き４４Ａから筒部４１の筒外に突出させ、かつ、第１副筒部４３Ａの筒内に収容させる第１突出ブロック部３２Ａが設けられている（図４及び図５）。

【００４７】

この電気接続箱１においては、２つの第１内部導電部材６０Ａのそれぞれの第２電気接続部６２を雄螺子部材７１の雄螺子部と共に第１副筒部４３Ａの一方の開口４３ａから抜け出させた状態で、第１副筒部４３Ａの筒内に第１突出ブロック部３２Ａと第１電源側電気接続構造７０Ａを収容させる。

【００４８】

第２電源接続部２２Ｂは、第２電源側電線ＷＢ２を電氣的に接続させると共に第２内部導電部材６０Ｂの第２電気接続部６２を物理的且つ電氣的に接続させる。電気接続箱１は、その第２電源側電線ＷＢ２と第２内部導電部材６０Ｂの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第２電源接続部２２Ｂとを相互間で電氣的に接続させる電源側電気接続構造７０として、第２電源側電気接続構造７０Ｂを備える（図２から図５）。この第２電源側電気接続構造７０Ｂは、第２電源側電線ＷＢ２の末端の電源側端子金具ＴＢと第２内部導電部材６０Ｂの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第２電源接続部２２Ｂのそれぞれの貫通孔ＴＢａ，６２ａ，２２ａに雄螺子部材７１の雄螺子部を挿通させ、その雄螺子部に雌螺子部材７３を螺合させることによって、その電源側端子金具ＴＢと第２内部導電部材６０Ｂの第２電気接続部６２と回路分岐部材（回路保護部材）２１の第２電源接続部２２Ｂとを共締め固定する。

## 【 0 0 4 9 】

ここで示すフレーム 4 0 は、副筒部 4 3 として、筒部 4 1 における一方の開口 4 1 a と同じ向きに口を開けた開口（一方の開口 4 3 a）が設けられた第 2 副筒部 4 3 B を有している（図 1 から図 4、図 6 及び図 1 0）。この第 2 副筒部 4 3 B は、第 2 電源側電気接続構造 7 0 B を筒内に収容し、かつ、この第 2 電源側電気接続構造 7 0 B における雄螺子部材 7 1 の雄螺子部を一方の開口 4 3 a から突出させる。この第 2 副筒部 4 3 B は、フレーム 4 0 の凹部 4 2 の中に設けられている。筒部 4 1 の筒壁 4 1 c には、切欠き 4 4 として、自身の筒内と第 2 副筒部 4 3 B の筒内とを連通させ、かつ、第 2 内部導電部材 6 0 B の第 2 電気接続部 6 2 を筒部 4 1 の筒外でフレーム 4 0 の外に突出させる第 2 切欠き 4 4 B が設けられている（図 4）。そして、ブロック 3 0 には、第 2 電源側電気接続構造 7 0 B の螺子保持部材 7 2 が組み付けられる突出ブロック部 3 2 として、その第 2 切欠き 4 4 B から筒部 4 1 の筒外に突出させ、かつ、第 2 副筒部 4 3 B の筒内に収容させる第 2 突出ブロック部 3 2 B が設けられている（図 4 及び図 5）。

10

## 【 0 0 5 0 】

この電気接続箱 1 においては、第 2 内部導電部材 6 0 B の第 2 電気接続部 6 2 を雄螺子部材 7 1 の雄螺子部と共に第 2 副筒部 4 3 B の一方の開口 4 3 a から抜け出させた状態で、第 2 副筒部 4 3 B の筒内に第 2 突出ブロック部 3 2 B と第 2 電源側電気接続構造 7 0 B を収容させる。

## 【 0 0 5 1 】

この電気接続箱 1 においては、第 1 電源側電気接続構造 7 0 A の雄螺子部材 7 1 の雄螺子部を第 1 電源接続部 2 2 A の貫通孔 2 2 a に差し込んで第 1 電源接続部 2 2 A を第 1 電源側電気接続構造 7 0 A に組み付け、かつ、第 2 電源側電気接続構造 7 0 B の雄螺子部材 7 1 の雄螺子部を第 2 電源接続部 2 2 B の貫通孔 2 2 a に差し込んで第 2 電源接続部 2 2 B を第 2 電源側電気接続構造 7 0 B に組み付ける。そして、この電気接続箱 1 においては、第 1 電源側電気接続構造 7 0 A の雄螺子部材 7 1 の雄螺子部を第 1 電源側電線 W B 1 の電源側端子金具 T B の貫通孔 T B a に差し込んでその電源側端子金具 T B を第 1 電源側電気接続構造 7 0 A に組み付け、かつ、第 2 電源側電気接続構造 7 0 B の雄螺子部材 7 1 の雄螺子部を第 2 電源側電線 W B 2 の電源側端子金具 T B の貫通孔 T B a に差し込んでその電源側端子金具 T B を第 2 電源側電気接続構造 7 0 B に組み付ける。この電気接続箱 1 においては、それぞれの雄螺子部材 7 1 の雄螺子部に雌螺子部材 7 3 を各々螺合して、第 1 電源側電線 W B 1 の電源側端子金具 T B と 2 つの第 1 内部導電部材 6 0 A のそれぞれの第 2 電気接続部 6 2 と回路分岐部材（回路保護部材）2 1 の第 1 電源接続部 2 2 A とを共締め固定し、かつ、第 2 電源側電線 W B 2 の電源側端子金具 T B と第 2 内部導電部材 6 0 B の第 2 電気接続部 6 2 と回路分岐部材（回路保護部材）2 1 の第 2 電源接続部 2 2 B とを共締め固定する。この電気接続箱 1 においては、2 つの電源側端子金具 T B と回路分岐部品（回路保護部品）2 0 が第 1 電源側電気接続構造 7 0 A と第 2 電源側電気接続構造 7 0 B を介してブロック 3 0 に組み付けられる。

20

30

## 【 0 0 5 2 】

第 1 副筒部 4 3 A と第 2 副筒部 4 3 B におけるそれぞれの一方の開口 4 3 a は、2 つの電源側端子金具 T B、2 つの第 1 内部導電部材 6 0 A と第 2 内部導電部材 6 0 B のそれぞれの第 2 電気接続部 6 2、回路分岐部材（回路保護部材）2 1 の第 1 電源接続部 2 2 A と第 2 電源接続部 2 2 B、第 1 電源側電気接続構造 7 0 A 及び第 2 電源側電気接続構造 7 0 B と一緒に第 1 カバー部材 5 1 で覆われて、この第 1 カバー部材 5 1 の中に収められる。

40

## 【 0 0 5 3 】

第 2 カバー部材 5 2 は、閉塞部 5 3 として、第 1 副筒部 4 3 A の他方の開口 4 3 b をフレーム 4 0 の外に露出させぬように塞ぐ第 1 閉塞部 5 3 A と、第 2 副筒部 4 3 B の他方の開口 4 3 b をフレーム 4 0 の外に露出させぬように塞ぐ第 2 閉塞部 5 3 B と、を有する（図 1、図 3、図 6 及び図 1 1）。この第 1 閉塞部 5 3 A と第 2 閉塞部 5 3 B は、他方の開口 4 3 b を第 1 切欠き 4 4 A や第 2 切欠き 4 4 B と一緒にフレーム 4 0 の外から塞ぐ 1 枚の板状の壁部であってもよく、他方の開口 4 3 b を第 1 切欠き 4 4 A や第 2 切欠き 4 4 B

50

と一緒にフレーム 4 0 の外から囲って覆い隠す複数の壁部から成るものであってもよい。ここでは、第 1 副筒部 4 3 A と第 2 副筒部 4 3 B が設けられた筒部 4 1 の他方の開口 4 1 b の周縁に、第 1 分割カバー 5 2 A が組み付けられる。このため、第 1 閉塞部 5 3 A と第 2 閉塞部 5 3 B は、第 1 分割カバー 5 2 A に設けている。

#### 【 0 0 5 4 】

以上示したように、本実施形態の電気接続箱 1 は、回路分岐部品（回路保護部品）2 0 を筒部 4 1 の筒外でフレーム 4 0 の外に配置しているので、この回路分岐部品（回路保護部品）2 0 に接続された電源側電線 W B（第 1 電源側電線 W B 1、第 2 電源側電線 W B 2）や負荷側電線 W L による筐体内での周辺への過荷重を抑止することができる。特に、この電気接続箱 1 は、電線径が太くなるほど電源側電線 W B（第 1 電源側電線 W B 1、第 2 電源側電線 W B 2）や負荷側電線 W L が曲がり難いので、この電源側電線 W B 等による筐体内での周辺への過荷重を抑止することができる。例えば、この電気接続箱 1 においては、電源側電線 W B 等による筐体内での第 2 カバー部材 5 2 への過荷重を抑止することで、この第 2 カバー部材 5 2 の変形を抑えることができる。また、この電気接続箱 1 は、曲げ難い電源側電線 W B 等をフレーム 4 0 の外で配策することによって、筒部 4 1 の筒内での他の電線の収容性を向上させることができる。また、この電気接続箱 1 は、電源側電線 W B 等をフレーム 4 0 の外で配策することによって、この電源側電線 W B 等で発生した熱が筐体内で籠もることがなくなるので、筐体内の温度上昇を抑えることができる。

#### 【符号の説明】

#### 【 0 0 5 5 】

- 1 電気接続箱
- 1 0 電子部品
- 2 0 回路分岐部品（回路保護部品）
- 2 1 回路分岐部材（回路保護部材）
- 2 2 電源接続部
- 2 2 A 第 1 電源接続部
- 2 2 B 第 2 電源接続部
- 2 3 負荷接続部
- 4 0 フレーム
- 4 1 筒部
- 4 1 a 一方の開口（開口）
- 4 1 c 筒壁
- 4 2 凹部
- 4 3 副筒部
- 4 3 A 第 1 副筒部
- 4 3 B 第 2 副筒部
- 4 3 a 一方の開口（開口）
- 4 4 切欠き
- 4 4 A 第 1 切欠き
- 4 4 B 第 2 切欠き
- 5 1 第 1 カバー部材（カバー部材）
- 6 0 内部導電部材
- 6 0 A 第 1 内部導電部材
- 6 0 B 第 2 内部導電部材
- 6 1 第 1 電気接続部
- 6 2 第 2 電気接続部
- 7 0 電源側電気接続構造
- 7 0 A 第 1 電源側電気接続構造
- 7 0 B 第 2 電源側電気接続構造
- B 外部電源

10

20

30

40

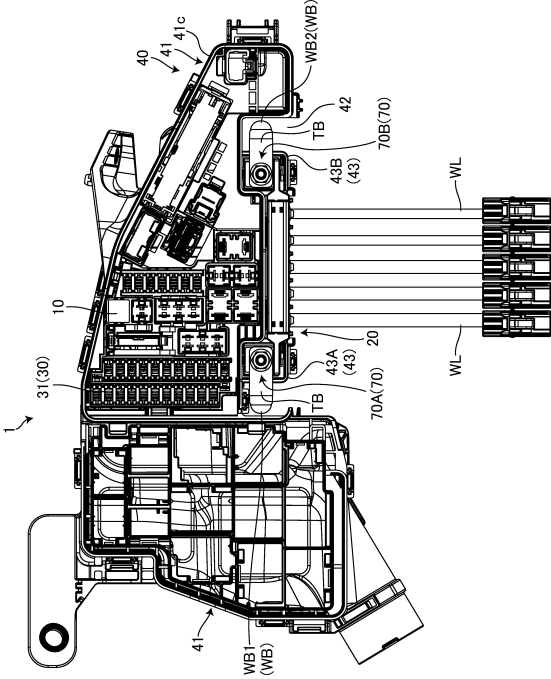
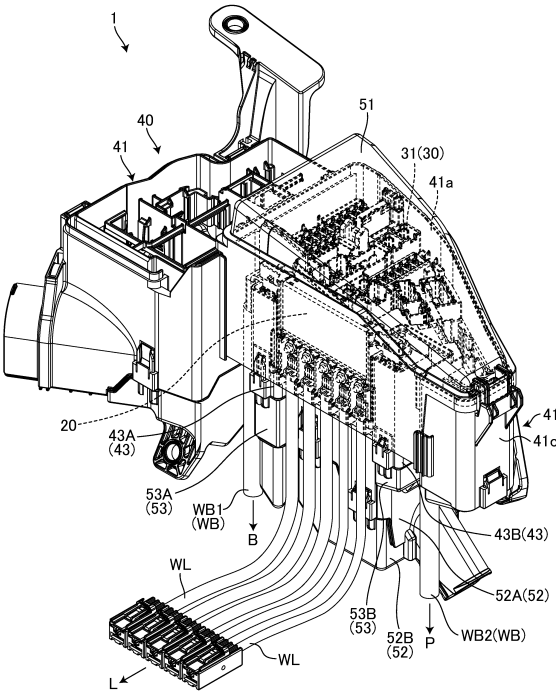
50

- L 外部負荷
- T B 電源側端子金具
- T L 負荷側端子金具
- W B 電源側電線
- W B 1 第 1 電源側電線
- W B 2 第 2 電源側電線
- W L 負荷側電線

【 図 面 】

【 図 1 】

【 図 2 】



10

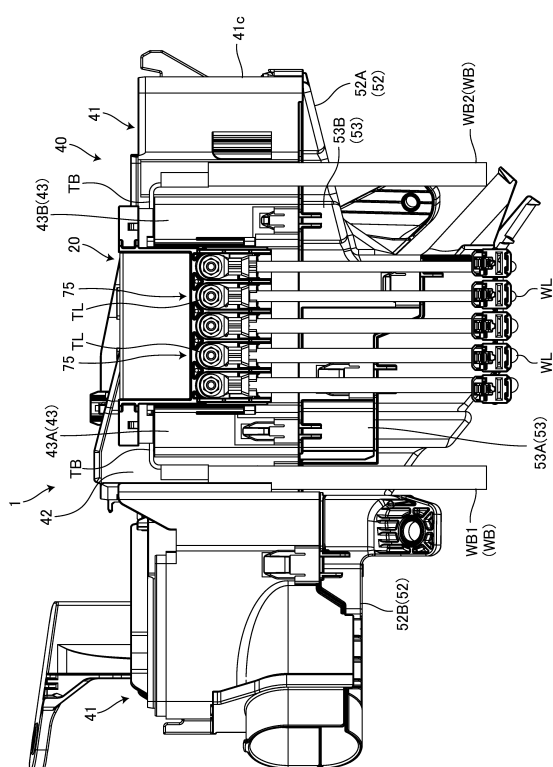
20

30

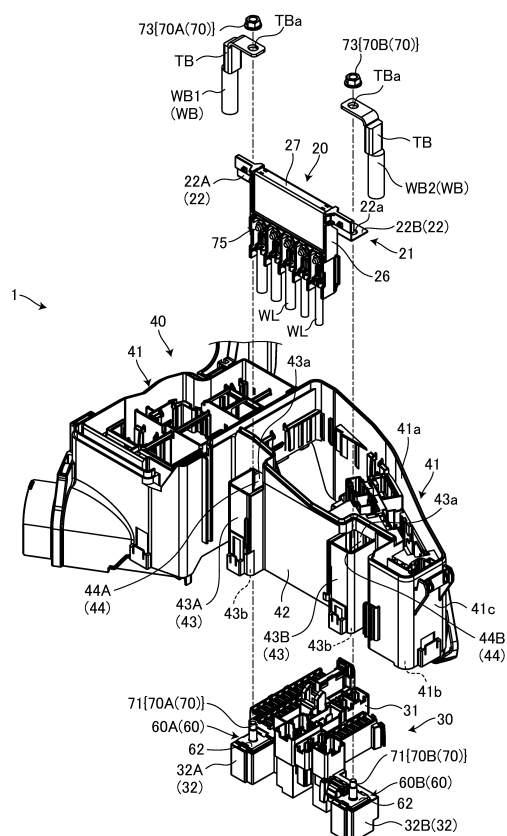
40

50

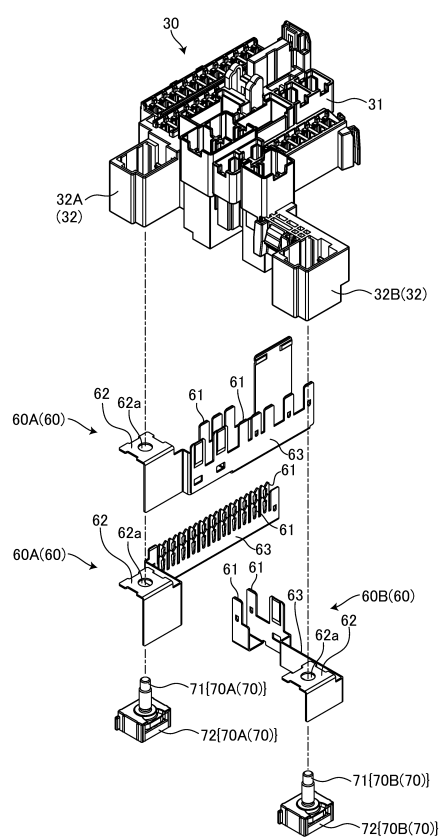
【 図 3 】



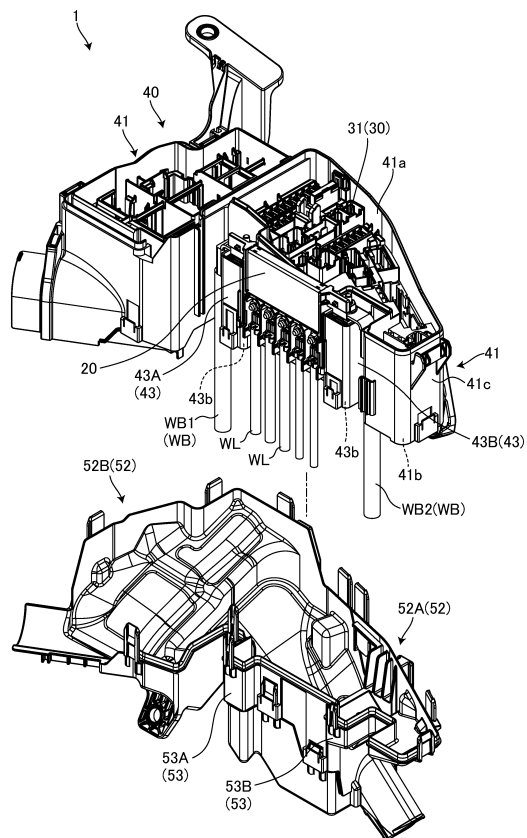
【 図 4 】



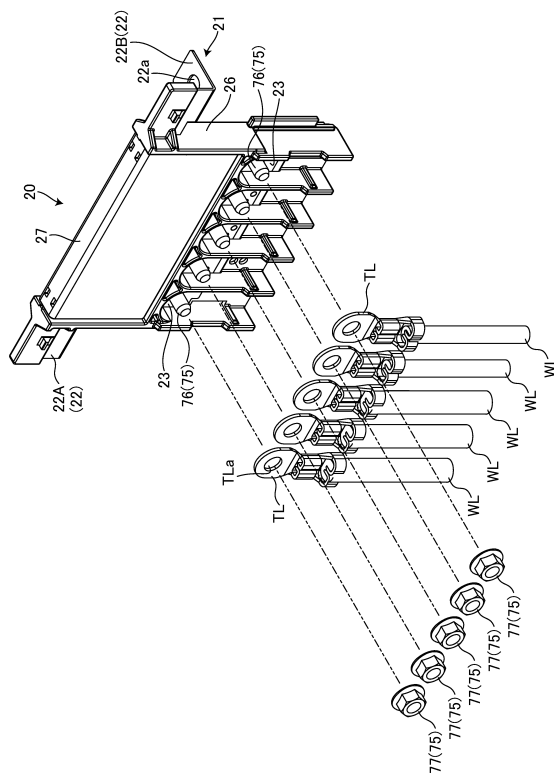
【 図 5 】



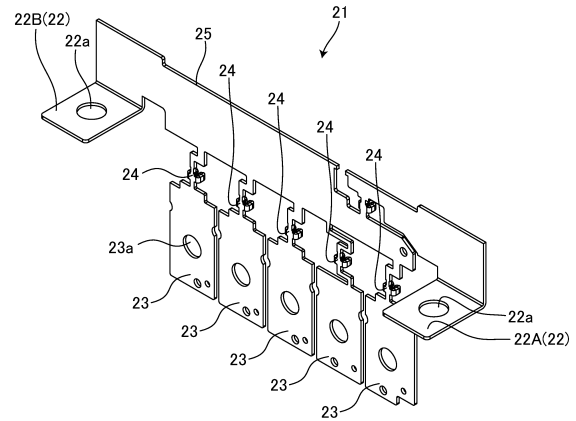
【 図 6 】



【圖 7】



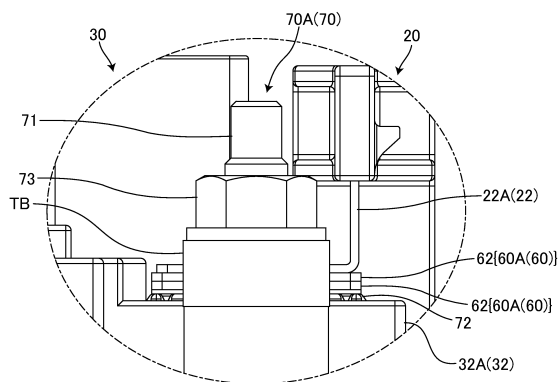
【圖 8】



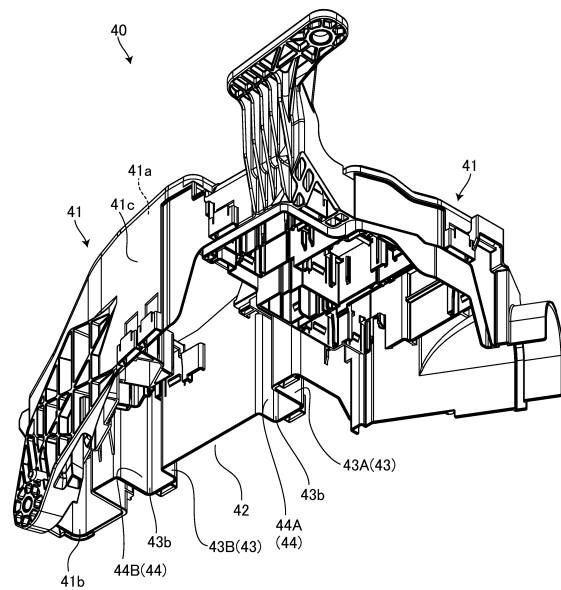
10

20

【 図 9 】



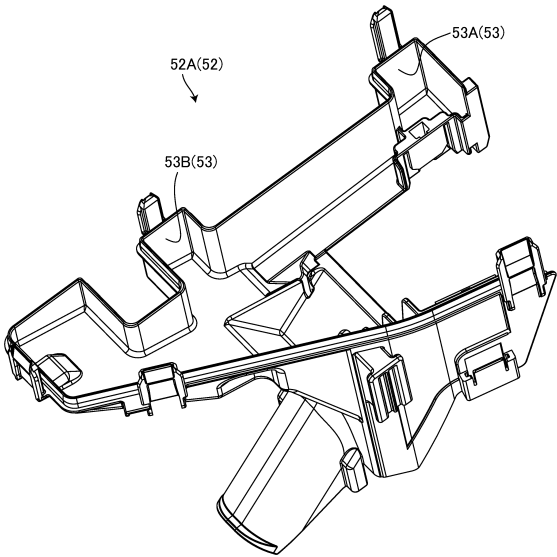
【 図 1 0 】



30

40

【 図 1 1 】



10

20

30

40

50

---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 1 3 - 1 4 6 1 2 6 ( J P , A )  
特開 2 0 1 6 - 2 2 6 1 3 9 ( J P , A )  
特開平 6 - 8 4 4 4 7 ( J P , A )  
特開 2 0 0 1 - 2 5 6 8 7 8 ( J P , A )  
特開 2 0 2 1 - 1 1 1 9 9 6 ( J P , A )  
特開 2 0 2 0 - 1 8 8 5 2 5 ( J P , A )  
特開 2 0 2 0 - 1 8 8 6 4 2 ( J P , A )

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)  
H 0 2 G 3 / 1 6  
H 0 2 G 3 / 1 4  
H 0 2 G 3 / 0 8  
H 0 5 K 5 / 0 2  
H 0 1 R 9 / 0 0  
B 6 0 R 1 6 / 0 2